

# 甲斐市立竜王中学校 自己評価書

令和5年1月12日 (木) 作成

校長 「野本眞二」 記者 職名 (教頭) 「 河西 修 」

## 学校教育目標

- ◎ 自ら学ぶ生徒 (知育)
- ◎ さわやかで心豊かな生徒 (徳育)
- ◎ たくましく生きる生徒 (体育)

## 生徒の努力目標

- 確かな学力は「生きる力」……授業へ真剣に主体的に取り組もう。
- あいさつは「心の交流」……さわやかな挨拶をかわそう。
- 継続は「力」なり……根気よく心身の鍛錬に取り組もう。

- |               |              |
|---------------|--------------|
| ・自ら学ぶ授業にしよう   | ・思いやりの心を育てよう |
| ・学校や仲間のために働こう | ・部活動を活発にしよう  |

## 学校経営方針

- (1) 第2次創甲斐教育推進大綱「学校教育指導方針」を具現化した教育を推進する。
- (2) 学習指導
  - ①一人ひとりの能力や適性を的確に把握し、個に応じる指導法の工夫・改善に努め、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。(ICTを効果的に活用した授業づくり)
  - ②生徒の意欲や体験的な活動を重視し、既習事項を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成に努める。  
(主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善)
  - ③教科への興味関心を高め、学習意欲を引き出し、家庭学習に自主的に取り組む生徒を育てる。(家庭学習と授業の連動、スタンバイ学習を推進)
  - ④「主体的に学習に取り組む態度」を育てるための評価の工夫。  
(学習の振り返り 行動観察 単元全体の振り返り)
- (3) 生徒指導
  - ①「凡事徹底」を心がけるとともに、規範意識を育み、基本的生活習慣の確立を図る。
  - ②生徒一人ひとりを適切に理解し、好ましい人間関係を構築する。
  - ③学校、家庭、地域、関係機関との密接な連携による生徒指導を推進する。
  - ④不登校生徒に対する理解を深め、連携を密にし、生徒・保護者により添った指導を行う。
  - ⑤いじめの未然防止、早期発見、早期対応に全職員が共通理解のもと取り組む。
- (4) 道徳指導 …「道徳的価値の自覚を促し、道徳的実践力を育てる」
  - ①思いやりの心を持ち、認め合い励まし合う態度を育てる。
  - ②自立心や自立性を高め、規律ある生活をしようとする態度を育てる。
  - ③教科としての道徳授業の改善に努め、道徳的実践力の向上に努める。
- (5) 特別活動  
〈学級活動〉
  - ・望ましい学級集団づくりを通して、よりより人間関係を築く。(QUの活用)
  - ・一人ひとりが役割と居場所のある学級づくりを進める。(所属感、自己有用感)

〈生徒会活動〉

- ・学校生活を楽しく充実したものにするため自治的集団活動を展開する。
- ・生徒の自主性、協調性を育成し、生徒相互の人間関係づくりを進める。
- ・校内、地域のボランティアを奨励し、母校、地域に貢献する態度を育てる。

〈学校行事〉

- ・学校生活をより豊かにする体験的活動を添加する。
- ・生徒自らが考え、行事を通して集団の成長するようなものにする。

(6) 保健・安全指導

- ①学校の新しい生活様式に基づくコロナ感染症対策の徹底を図る。
- ②心身の健全な発達を図り、衛生的な環境づくりに努める。
- ③学校事故の防止、交通安全指導の徹底に努める。
- ④自他の命の大切さ、安全意識の向上について、計画的・系統的に指導し、自ら災害や危険から身を守る態度を養う。
- ⑤ラジオ体操を奨め、体力作り一校一実践を推進する。

(7) 給食指導

- ①給食指導を通して、職に対する基本的知識を身につけさせる。
- ②望ましい食事マナーを身に付けさせる。(服装、配膳、片付け、あいさつ等)

(8) 情報教育

- ①1人1台端末によるICTの効果的な活用を推進する。
- ②SNSの利用、スマホ使用時間など、ネット使用に関する課題や情報リテラシーについて学習する機会を持つ。

(9) 国際理解教育

- ①諸外国の歴史や文化等について理解をすすめ、我が国の文化や伝統を尊重する態度を養う。
- ②キオカック(アメリカ)、タラマラ(オーストラリア)との国際交流を進める。  
(隔年で、受け入れ・派遣事業を実施しているがここ数年はコロナにより中止している)

(10)環境教育

- ①環境美化、環境保全、資源の有効活用などについて、主体的に考え行動できる資質を養う。  
(パンジー等の植栽、牛乳パックの回収など体験活動を推進)

(11)特別支援教育

- ①あすなる、かしのき、さくらの特別支援学級担当者相互、他の教職員、保護者との連携を進め、一人ひとりのニーズに応じた教育に努める。
- ②自立心を養い、円滑な人間関係を築けるように育てる。

(12)読書教育

- ①心を豊にする読書教育を積極的に行う。(朝読書の継続的な実施)
- ②授業で図書館の活用を進める。

(13)保護者・地域との連携

- ①学級・学年・学校だより等の発行、学校ホームページによる情報発信に努める。
- ②安心安全メールを効果的に活用し、必要な情報発信を行う。
- ③保護者・地域の願いを把握し、地域に根ざした教育の推進を図る。  
(終日学校開放日、PTAとの連携、地域人材の活用、地域貢献活動)

## 1 全体評価

- 「Ⅰ学校教育目標」の項目では、5項目のうち4項目でB評価が最頻値である。
  - 「Ⅱ学校運営」の項目では、8項目のうち5項目でB評価が最頻値である。
  - 「Ⅲ学習指導」の項目では、7項目のうちすべての項目でB評価が最頻値である。
  - 「Ⅳ生徒指導」の項目では、6項目のうち4項目でB評価が最頻値である。
  - 「Ⅴ地域との連携」の項目では、6項目のうちすべての項目でB評価が最頻値である。
  - 「Ⅵ学校の特色」の項目では、4項目のうちすべての項目でB評価が最頻値である。
  - 「Ⅶ創甲斐教育」の項目では、3項目ともにB評価が最頻値である。
- ・39の評価項目の内、肯定的評価〔A（とてもそう思う）＋B（そう思う）〕が80%を超えているものが36項目である。
  - ・全39項目中、Aが5項目、Bが最頻値で34項目であった。
  - ・否定的評価〔C（ややそう思わない）＋D（そう思わない）〕の割合が比較的高かったもの（20%を超えたもの）は、「Ⅱ学校運営について」の中の「あなたの学校は、適材適所の校務分掌がなされ、負担について配慮がなされている。」と「Ⅲ学習指導について」の中の「あなたの学校は計画的に道徳の時間が実施され心に響く授業が行われている」、Ⅴ「地域との連携について」の中の「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。」「あなたは、PTA活動に積極的に参加している。」の4項目であった。
  - ・感染症対策のため、担任の負担が増加し、各種行事の内容が変更され、保護者や地域との連携を行いにくいことが評価結果に反映されている。

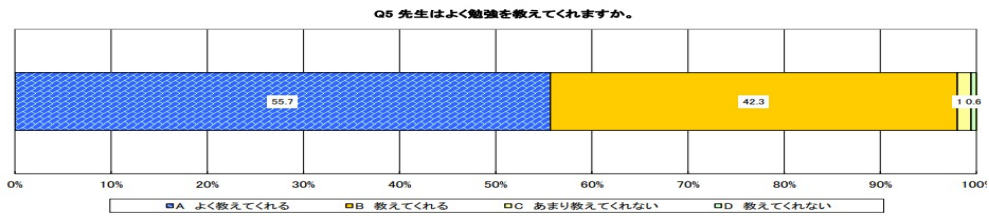
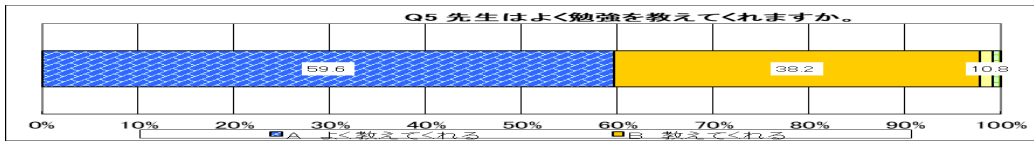
## 2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

### I 学校教育目標に関して・学校経営について

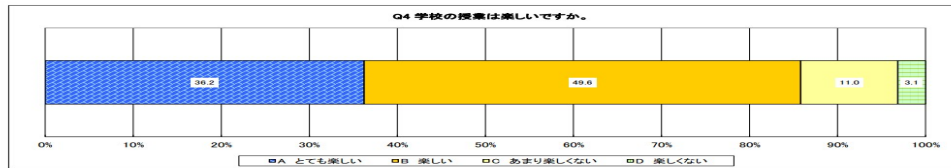
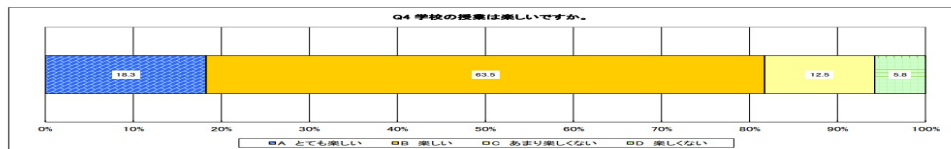
達成状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・全5項目、全てが肯定的評価80%以上となった。</li><li>・「あなたは、学校経営方針や学校教育目標に基づいた教育活動を行っている」はAとBを合わせて100%であった。A評価の割合が高かったものは、「学校教育目標が、学校経営方針を踏まえたものになっている」だった。学校経営方針を明確に示し教師の意思統一が図られていることがうかがえる。</li></ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校教育目標や学校経営方針に基づいた教育活動が展開されていると捉えることができる。一方、コロナにより職場の福利厚生や健康管理に不足を感じている職員がおり、職員一人ひとりの目標達成に向け、なお一層のP→D→C→Aサイクルを活用した実践を行う必要がある。</li><li>・職場の福利厚生や健康管理への回答は昨年度からA61.3%→A29.4%に下降している。平均退勤時間は夏季・冬季休業前や学園祭前に19時をこえる職員が多くなる傾向があるものの、学期を進めるに従って時間外勤務は減少した。来年度は完全下校が17:30と早くなり、定時退勤日の推進、行事準備の軽減、職員会議の時間削減、PTA活動の見直しなどに取り組む予定である。さらに、グループウェアの勤務時間管理を活用し職員の意識改革を行い、多忙化改善計画を実効性のある取り組みにしていかなければならない。</li></ul>

II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全8項目の内、7項目が肯定的評価80%以上となった。</li> <li>・A評価の割合が高かったものは「あなたは、職務上「報告、連絡、相談、確認」を行っている。」「あなたは、他の教職員と連携して協働体制で、教育活動にあたっている。」「個人情報保護・情報セキュリティの観点から、諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している。」である。</li> <li>・A評価が低かったものは、「あなたの学校は、適材適所の校務分掌がなされ、負担について配慮がなされている。」「校務支援システムを十分活用できている。」であった。</li> </ul>
改善策	<p>感染症対策で生徒の取り組みが制限され職員の危機意識や不安が高まっている。特にクラスの結末を高め個性を伸ばす行事の制限が依然として残っている。特に合唱発表会が実施されなくなり3年目を迎え、三密を防ぐために普通の授業においても授業内容（合唱、調理実習、育児実習）も制限されている。制限下でも生徒達が個性を発揮し、主体的で協働的な学びに取り組む工夫について職員がチームとなり取り組んでいく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校務分掌についての肯定的評価（A+B評価）は昨年度83.8%→64.7%と大幅に減少した。来年度は、ベテラン職員の退職や新任職員の増加も予想される。学校が生徒のためにベストなパフォーマンスを発揮するためには、職員の連携・協働が欠かせない。自己評価で分掌の負担に偏りがあるとした職員が10人いる。特に学級担任の負担感は増大しており、今後は風通しの良い職員集団であるために、分掌の役割や機能をもう一度点検し、負担を分散軽減していく必要がある。</li> <li>・支援を必要としている生徒は増加する一方である。そして、特別支援教育の体制や機能に不足を感じる職員もいる。支援を必要とする生徒への理解には時間と手間がかかり、全職員で共通理解を図り一貫性を持って指導することが大切である。今後は、校内の担当職員の情報交換の定例化を週の教育課程に位置付けると同時に、カンセラーが同席できる支援会議の定期的実施を行っていく。</li> <li>・校内研修への関わりについて、肯定的評価（A+B評価）は93.4%→88.2%に下降した。ICTの活用は順調に取り組みられ、遠隔授業実施や学び合いソフトウェア導入（ロイロノート）が本年度行われた。今後は授業進度と理解度の両立が求められ、教師の授業の三種の神器として定着させる実績と経験が職員に問われることになる。</li> <li>・校務支援システムについては、本年度が3年目である。毎日の授業評価を積み上げた結果を成績として算出できる校務支援システムの機能は、日々の業務を改善することができるものである。業務改善と評価と授業の一体化を目指してシステムのなお一層の活用を校内で進めていく。</li> </ul>
III 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的評価（A+B）が80%以上となったのは7項目中全てであった。特に「あなたは児童生徒の学びの意欲を喚起する授業をおこなっている」「あなたは、個に配慮した基礎、基本の定着を図る授業を行っている」「あなたは、指導と評価の一体化に努めた授業を行っている」が100%であった。</li> <li>・一方、否定的評価（C+D）は「道徳の時間が計画的に実施され、心に響く授業が行われている」において、そう思わないが22.2%→24.1%になり二年連続の増加だった。</li> </ul>

④ 学校の授業は楽しいですか…R3 81.8%→R4 98.0

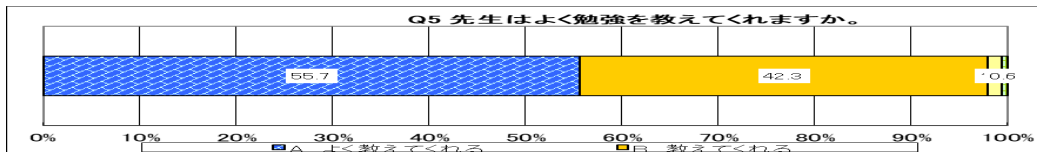
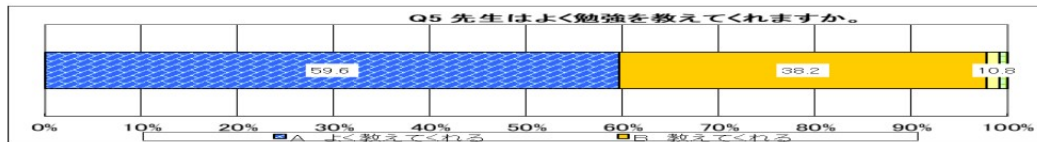


全校（上段 R3 下段 R4）



R4（上段1年 中段2年 下段3年）

⑤ 先生はよく勉強を教えてくださいますか…R3 97.8%→R4 98.0%



全校（上段 R3 下段 R4）

⑥ 国語の授業の内容はわかりますか…

R3 93.3%→R4 93.3%

⑦ 数学の授業の内容はわかりますか…

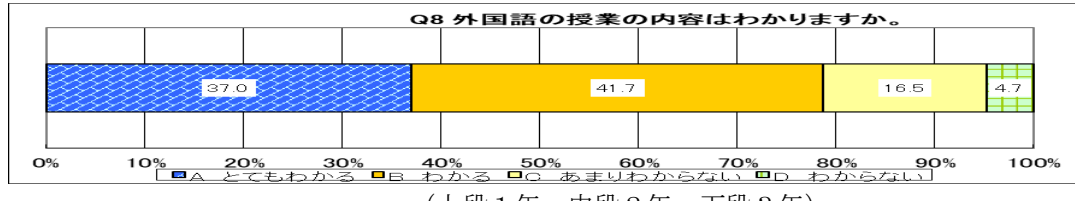
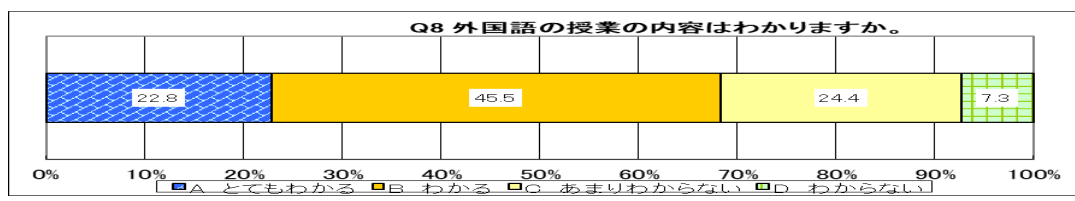
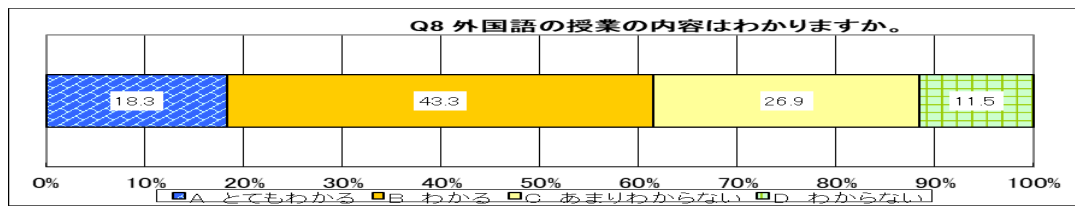
R3 88.2%→R4 88.2%

⑧ 外国語の授業の内容はわかりますか…R3 73.7%→R4 69.9%

⑨ 人前でしっかりと自分の意見を言うことができますか…R3 66.2%→R4 73.0%

⑩ 字をていねいに書くようにしていますか…R3 72.7%→R4 74.8%

・生徒アンケートの⑤「先生はよく勉強を教えてくださいか」において、肯定評価が更に上昇した。⑥・⑦国語・数学の授業の内容についても肯定的評価が、それぞれ昨年度を上回る93.3%、88.2%となり生徒は理解が深まったと考えている。外国語は2年連続で昨年度を下回り69.9%、創甲斐教育指標を越えることができなかった。しかし、肯定評価は1年61.6%、2年68.3%、3年78.7%と学年が上がるに従い肯定的評価が上昇している。先生方の授業の成果が結果として現れ始めていると考える。



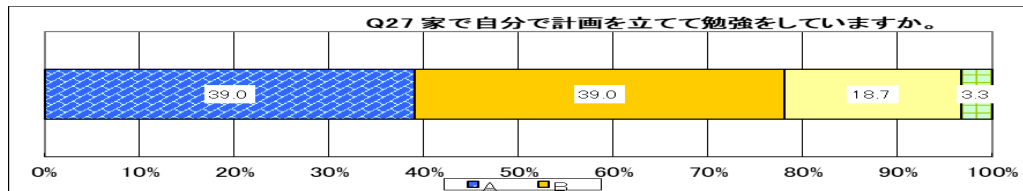
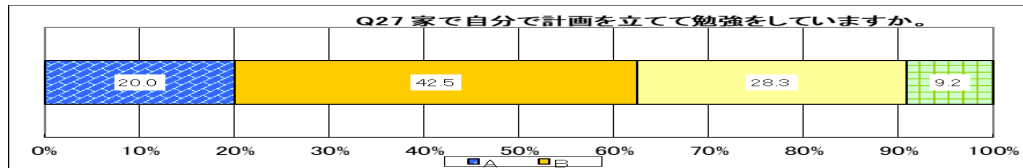
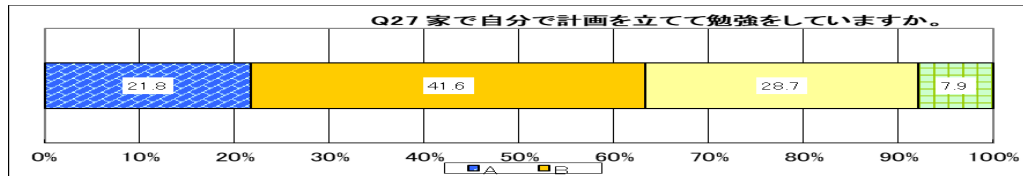
(上段1年 中段2年 下段3年)

・校内ではICTを用いた授業改善に取り組んだ。特にロイロノートによる協働学習は主体的・対話的で深い学びに生徒達を導く手段として多くの先生方が実践している。本格的に稼働しているICTを活用した学びは生徒の評判もよく、学習への興味関心が高まりやすく、学び合いのツールとして活用することで生徒たちの理解度が高まっている。授業への興味関心も1年81.8%2年76.2%3年85.8%と比較的高く、3年次になると微増している。生徒が主体的に学ぶ授業への改善は、若手からベテランまで必ず行わなければならない喫緊の課題である。今後もICTを適切に使用した授業改善と実際に書いたり、話したりする活動を適切に織り交ぜることを通して、生徒に生き抜く力を養う質の高い教育をめざして取り組まねばならない。

・「家庭学習」についての教師の肯定評価は96.0%→88.5%と下降した。また、生徒の家庭での計画的な学習は1年63.4%、2年62.5%、3年78.0%となり1年次から3年次になるに従って家で計画的に学習を行えるようになってきている。学校外目標学習時間の達成度は

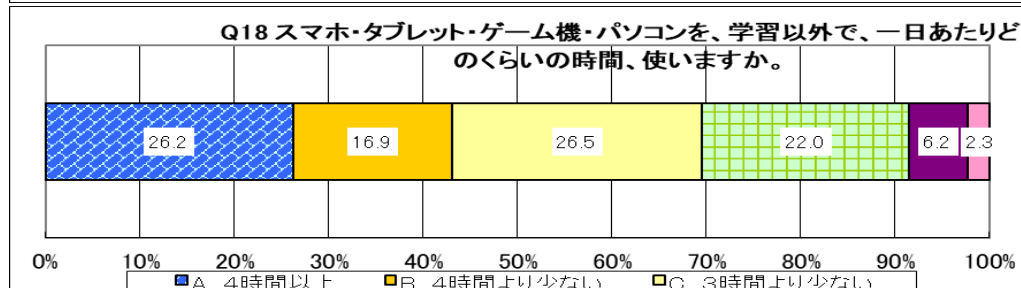
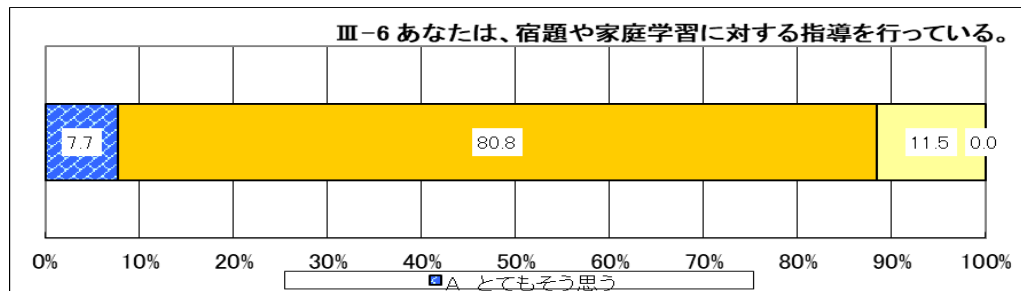
改善策

肯定評価が R3 65.9%→R4 56.3%と大きく減少し低い状況を継続しており家庭学習は時間的には増加していない。



R 4 1年 63.4%, 2年 62.5%, 3年 78.0%

- ・ 4時間以上の勉強以外のスマホやゲームに関しては R3 21.1%→R4 26.2%と増加し、スマホやゲームを持っていない生徒は全体の2.3%にすぎない。家庭学習と授業の連携は学習量が増加した学習指導要領の教育課程をやりきるためには必須と言える。スマホやゲームに多くの時間を費やしてしまう生徒にとって、家庭学習と教科の授業がより有機的に結びつく取り組みを教師が主体的に工夫していかなければならない。また、保護者との話し合いや連絡を密にしていけることに取り組むことが大切である。



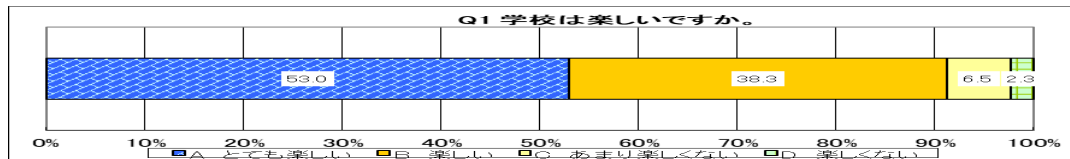
#### IV 生徒指導について（児童生徒用アンケートも含めて）

達成状況

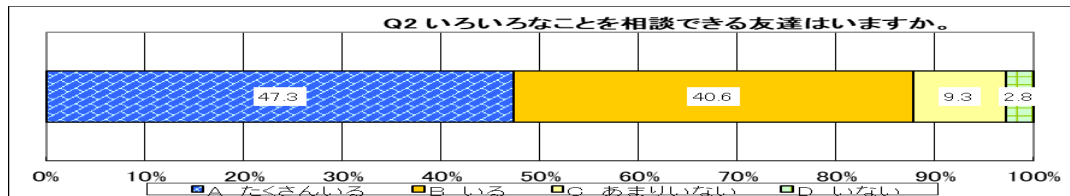
- ・全6項目全てが肯定的評価80%以上となり、4項目が100%であった。
- ・A評価の割合が高かったものは「あなたは児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている」と「あなたは、児童生徒の規範意識をはぐくむ指導に取り組んでいる。」であった。また、肯定評価は上記の質問に加え「民主的で規律のある集団づくり」の3問に関しては100%となっている。

生徒アンケートより 肯定評価（A+B）

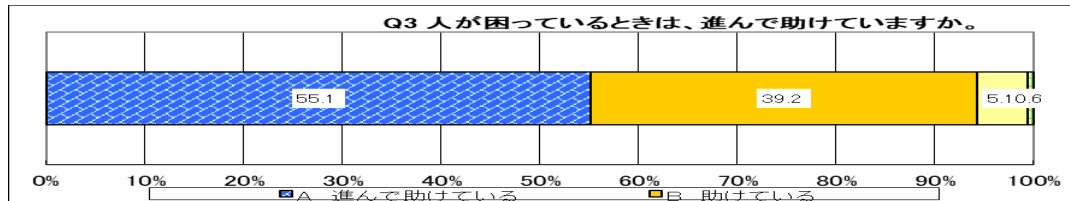
① 学校は楽しいですか…R3 88%→R4 91.3%



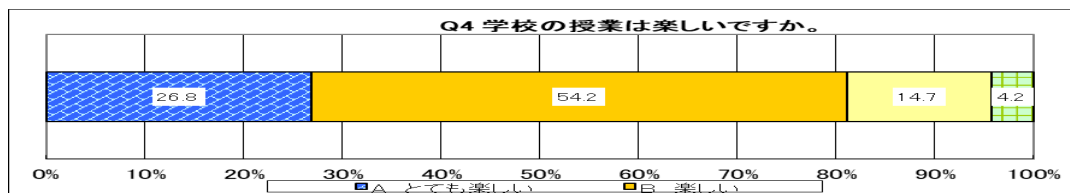
② いろいろなことを相談できる友達はいませんか…R3 87%→R4 87.9%



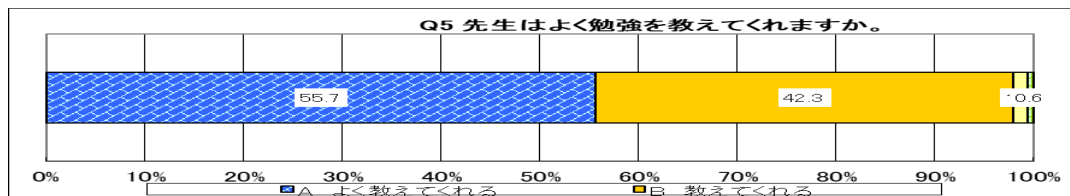
③ 人が困っているときは進んで助けていますか…R3 94%→R4 94.3%



④ 学校の授業は楽しいですか…R3 82%→R4 81%

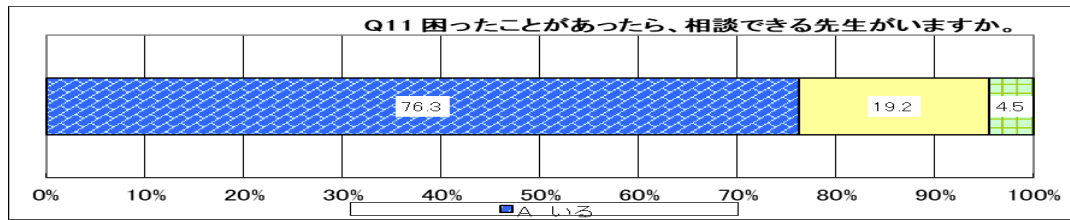


⑤ 先生はよく勉強を教えてくださいませんか…R3 98%→R4 98%

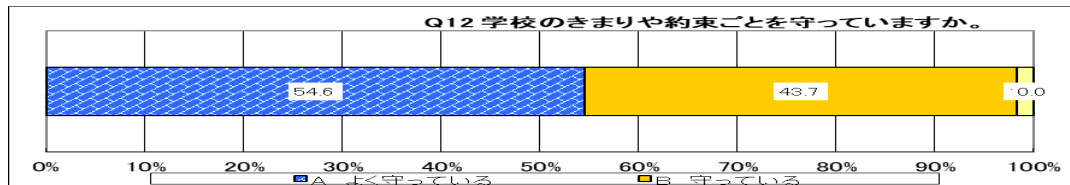




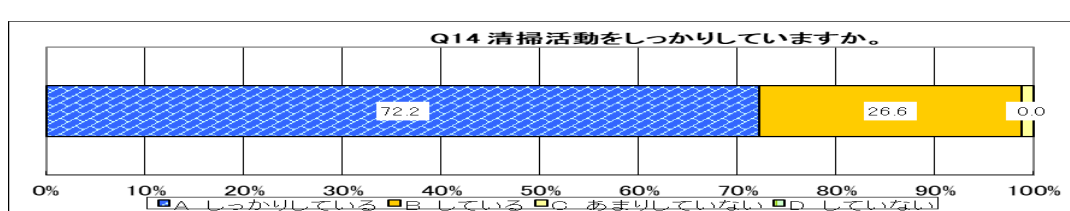
⑪困ったことがあったら相談できる先生がいますか…R3 71%→R4 76.3%



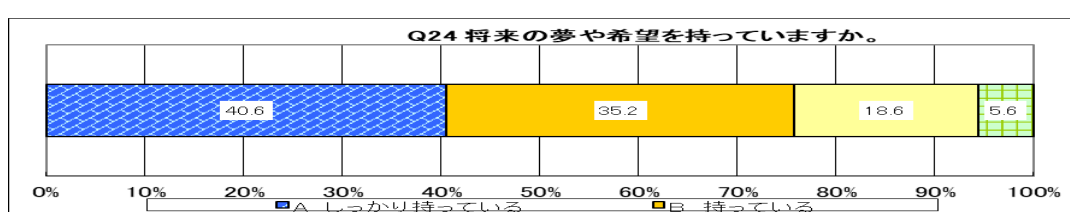
⑫学校のきまりや約束ごとを守っていますか…R3 98%→98.3%



⑬清掃をしっかりとっていますか…R3 98%→R4 98.8%



⑭将来の夢や希望を持っていますか。…R2 76.6%→R3 74% →R4 75.8%



改善策

- ・生徒アンケートにおける肯定的評価（A+B）は①②③④⑤⑪⑭において高評価が継続しており昨年度をほとんどが上回った。特に「困ったことがあったら相談できる先生がいますか」が増加し、先生方への信頼が増していることがわかる。本年度は二者懇談や三者懇談に加え、紙ベースのたつこの相談表以外にICTを使った調査やQU調査も行い生徒の気持ちに寄り添う指導の充実に努めた成果と考える。
- ・コロナ禍において、暗中模索の取り組みから、三密回避、感染症対策を行うなかで、適切なICT活用による授業改善や行事の工夫、精選がおこなわれてきた。大きく減速しかけた教育課程実施状況は改善しつつあり、生徒達の自主性を生かした取り組みの工夫が各教科と行事で行われ、生徒達の期待に応えた取り組みとなりつつある。清掃活動、あいさつ、ルールや決まり事を守ることを当たり前のこととして成長している竜王中生のため、学校は魅力的であること、一人ひとりの居場所であること、自分の夢を育てることができる場所であることが大切である。職員集団は気持ちを引き締め、これからも学び続ける教師として日々精進し生徒達の期待に応える専門性を身に付けなければならない。
- ・「問題行動（いじめ・不登校）の早期発見・早期対応」について、職員の肯定的評価（A+B評価）は約90%である。いじめの早期発見・早期対応を実施するため毎学期実施している「たつこの相談表（生徒いじめアンケート）」に加え昨年度よりICTによる月一

	<p>回のアンケート調査も計画的に行っている。きめ細かな調査を定期的に行う事でアンテナ高く情報を得ること、生徒とのコミュニケーションを深め信頼関係を築くこと、生徒の自主性を養い自己肯定感を高める取り組みを実施していくこと等を学校全体で実施し安心・安全な学校をつくっていく。</p> <p>・昨年よりも減少している状況にはあるが、本校の喫緊の課題として不登校対応がある。また、特別の支援が必要な生徒も年々増加している。今後担当が抱え込まないようにするために情報共有を行い学校は組織として取り組むことを基本とし、関連機関との連携を推進するなかで個に応じた対応をきめ細かく実施していく必要がある。そのためにもコーディネーターや不登校担当を中心にケース会議を定期的実施し、具体的な対応力を学校全体で高めていく必要がある。</p>
<p><b>V 地域との連携について</b></p>	
<p>達成状況</p>	<p>全6項目すべての最頻値がB評価となった。特に低かったのは「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている」「あなたは、PTA活動に積極的に参加している」であった。本年度もコロナ禍により、PTA総会の紙上提案、学園祭の文化部門の保護者参加の見送り、親子奉仕作業も中止となった。保護者への学校開放は3回実施したが、平均参加者は160人程度で平年を大きく下回る。今回A評価が高かったのは「あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。」だった。直近60日のホームページ参照は2345viewsであり、トップページ2345views活動の様子1549viewsとなっている。</p> <p>※ 生徒アンケートより (A+B)</p> <p>① だれとでも挨拶をしていますか R3 90.8%→R4 90.9%</p> <p>② 今住んでいる地域の行事に参加していますか R2 70.3%→R3 67.9%→R4 61.1%</p> <p>※ 保護者アンケートより</p> <p>④ 学校(学年・学級)だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる R2 83.8%→R3 81.6%→R4 78.2%</p> <p>⑤ 学校は保護者、地域住民からの声に耳を傾けている。 R2 76.3%→R3 69.4%→R4 67.7%</p> <p>⑥ 授業参観や学校開放日などは生徒の様子を知る機会になっている。 R2 73.6%→R3 75.9%→R4 83.4%</p>
<p>改善策</p>	<p>本年度も、感染症対策実施のため、保護者が学校の様子を直接参観できる機会が少なくなった。昨年度1回だった学校開放は3回、学園祭体育部門は保護者2名までの参加に加えYouTubeでのリアルタイム放送を実施した。また、学校だよりや学年・学級通信の発行、ホームページの更新量は増加した。しかし、実際の来校数の減少や関連行事の未実施により評価結果は厳しい内容となった。職員の自己評価においても「教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導」「PTA活動に積極的に参加する」の2項目が後退している。コロナ禍での情報提供を増やしてきたものの、保護者の要望には応えきれない実情も浮き彫りになると同時に、職員の地域連携への手段がなくなり暗中模索の状況にある。</p>

今後は、感染症対策の実情を踏まえた上で、学校行事や授業公開方法を平常実施をベースに見直し、更に地域と保護者が積極的に学校行事に協力できる組織運営を工夫していかなければならない。

- ・昨年度は教育講演会を中止としたが、本年度は2年ぶりに「航空高校の生徒達」を招聘する中で実施することができた。ダンス部で躍動している先輩方の姿を直接みることによって、本校生徒達も身近な先輩方の頑張りに力をもらい夢と希望を再確認することができた。航空高校の先輩方が講演に来てくれたのは、竜王中でかつて行われていた「竜中ソーラン」の取り組みがあったことからである。小さな取り組みではあったが地域や関連機関から竜王中が学ぶことができた取り組みとなった。また、2学年で実施された地域の企業での職業体験学習は、教育委員会・地元企業の支援と協力のもと実施することができた。生徒・保護者の評価も好評であり、竜中生の成長ぶりを地域に紹介する機会となった。

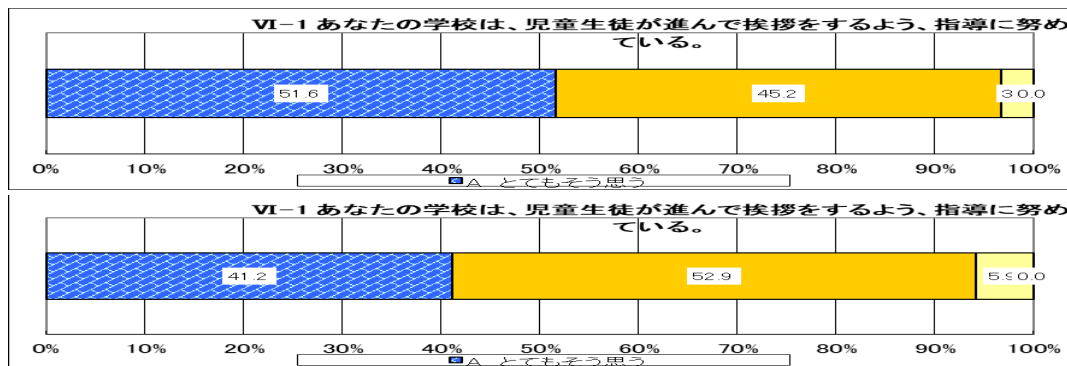
今後はチーム学校を実現するため、①学校評議員会、PTA学校委員会、学年学級懇談会の効果的活用、②ボランティア活動・地域貢献活動の推進、③地域人材の活用、④学区小学校、高等学校との連携などを通して、学校・地域・保護者が連携協働する機会を増やし地域の実態に応じ生徒が持続的に取り組む場の設定や生き抜く力を獲得する学びを実現させていく。

R5年1月9日にPTA会長が代表取締役を務める「有限会社千宝」の皆さんが竜王中学校の敷地改善工事を「すべては生徒のために」ということで無償にて行っていただきました。この竜王中への期待に応えるため、下降しつつある地域との絆を取り戻し深めるため来年度は最重要課題として取り組んでいく。

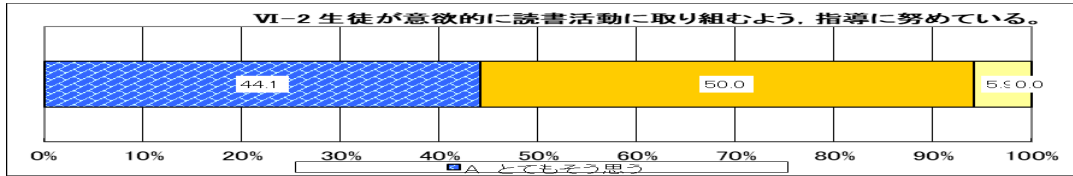
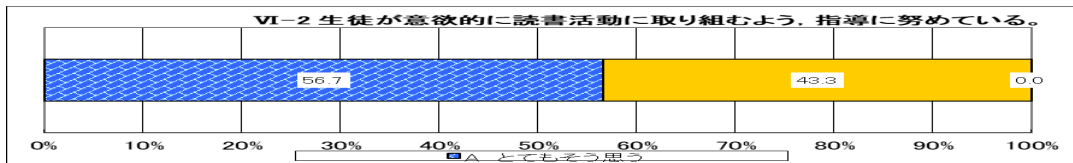
## VI 学校の特徴に関して

達成状況

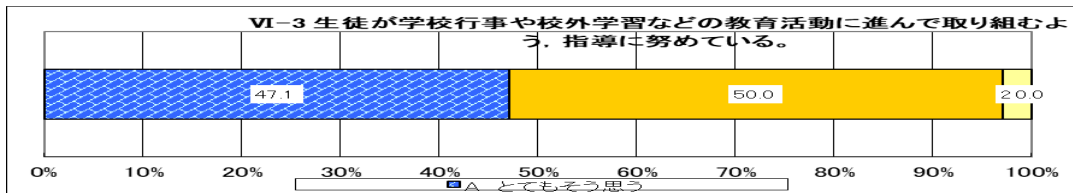
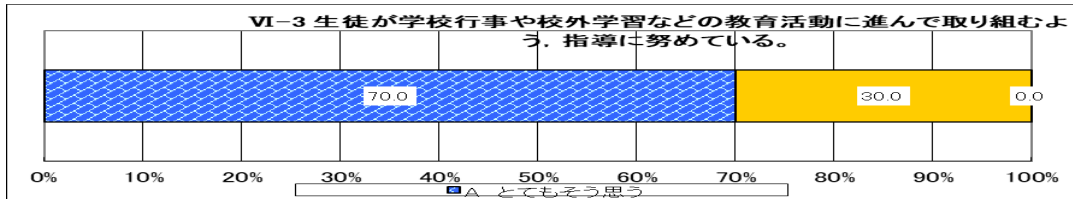
- ・4項目中すべてが肯定的評価80%以上（最頻値はB）となった。  
挨拶 R2 97.1%→R3 96.8%→R4 94.1% 読書 R2 100%→R3 100%→R4 94.1%  
学校行事 R2 100%→R3 100%→R4 97.1% 信頼関係 R2 97.1%→R3 100%→R4 97.1%
- ・特に肯定評価が高かったのは、「生徒が学校行事や校外学習に進んで取り組むよう、指導に努めている」「生徒と教師の信頼関係は良好である」であった。
- ・A評価は昨年度よりすべて下降した。



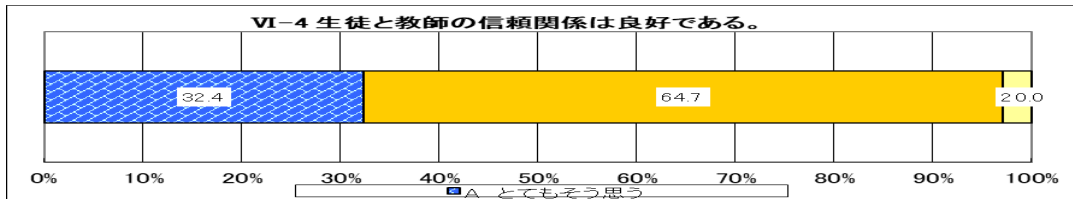
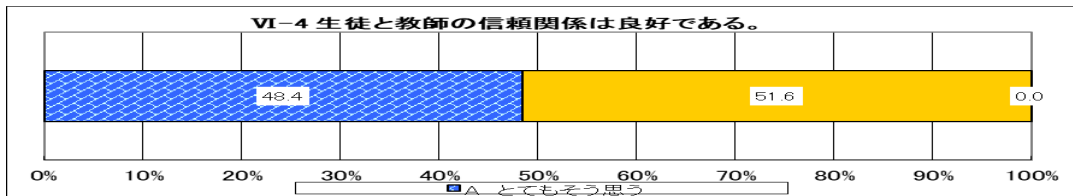
あいさつ 全校（上段 R3 下段 R4）



読書活動 全校（上段 R3 下段 R4）



学校行事全校（上段 R3 下段 R4）

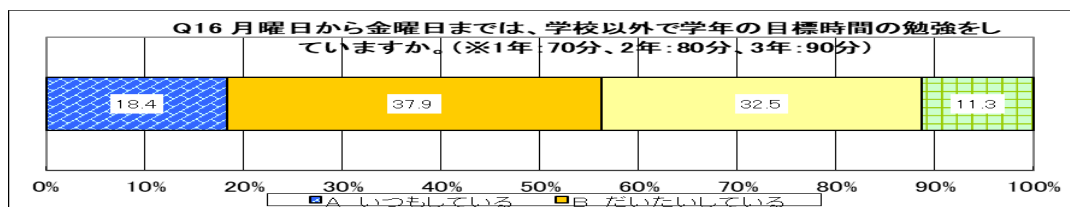
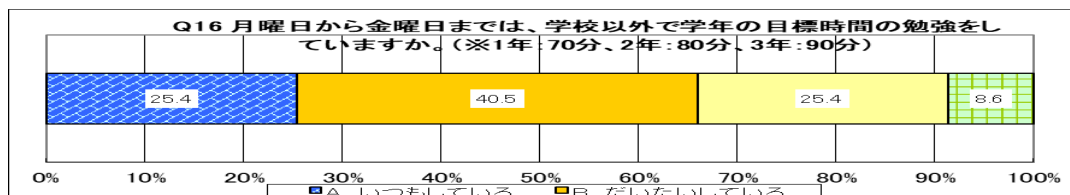


信頼関係全校（上段 R3 下段 R4）

改善策

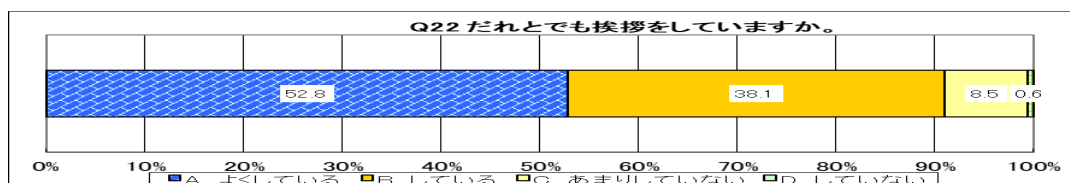
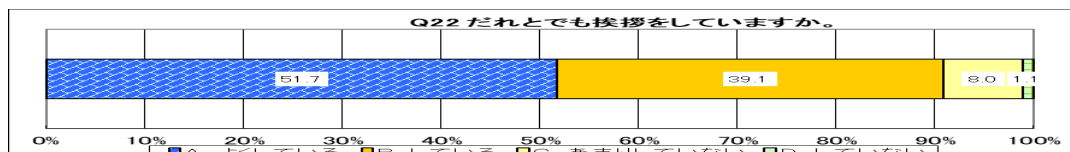
・本校は朝や夕のあいさつをはじめ、授業開始・終了時に規律正しいあいさつを実践している。普段より生徒同士や生徒と教師が信頼関係を高めあいながら規則正しい学校生活に取り組んでいる。教師は生徒との信頼関係を高めるために、普段から生徒とのコミュニケーションをとることに専念している（休み時間中も生徒とのコミュニケーションをとり、日記や学習ノートへの助言、ICTを活用したアンケート実施、二者・三者懇談の実施等）。また、生徒が興味関心を高めることができる授業改善に校内研究を中心に取り組み、特にICTを適切に活用した授業改善により協働的な学び、学び合いは大きく前進している。今後も、生徒達の信頼を勝ち取るために授業改善、生徒達の自主性を養い、居心地が良い学校づくりに組織を挙げて取り組んでいく。

- ・コロナ禍において、生徒・教師ともにストレスを抱えている。その中でも正常な学校生活を送れていることは、生徒・教職員・保護者の協力があってこそそのものとする。来年度は竜王中の特色である「はつらつとした生徒の育成」を授業改善と教育課程の工夫を基礎に、職員が自信をもって取り組めるよう環境を整え、職員のベクトルを揃えて取り組んでいく。
- ・スタンバイ学習は3年目となり、授業と家庭学習の連携を推進している。近隣小学校でも家庭での自主学習が習慣化されている。授業での目標提示・振り返り・スタンバイ学習は表裏一体のものであり、帰りの会だけで実施するものではない。「実施方法は生徒たちの発達段階に応じて変更していく必要もある」との声から、3学期には授業内で確実に振り返りと学び直しを実施し、帰りの時間を補修学習にあてている学年もある。生徒の自主学習時間は減少傾向にあり、「ICTを活用しての自主学習の保証」「授業内での振り返り、学び直し」「協働学習の推進（学び合い）」を中心に今後実践的に取り組んでいく。  
生徒アンケートより



月曜日から金曜日までは、学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか。  
(上段 R3→下段 R4 ※1年:70分、2年:80分、3年:90分)

- ・教職員の登下校指導におけるあいさつや保護者や保護司の正門でのあいさつ活動、生徒会のあいさつへの取り組みや、小中連携でのあいさつ運動など様々な活動を行っている。昨年度よりも生徒の A 評価は微増している。しかし、先生方の実感としてはまだまだ少ないと感じているところであり、今後も開かれた学校を目指し、継続して活動を進めていきたい。

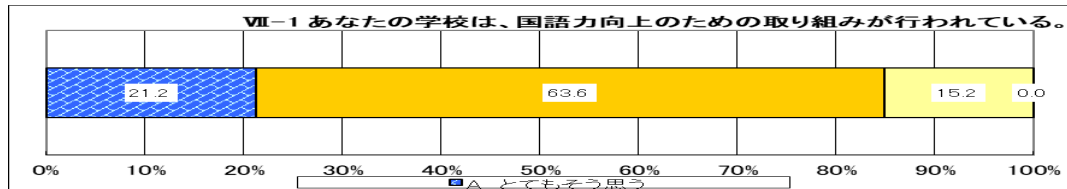
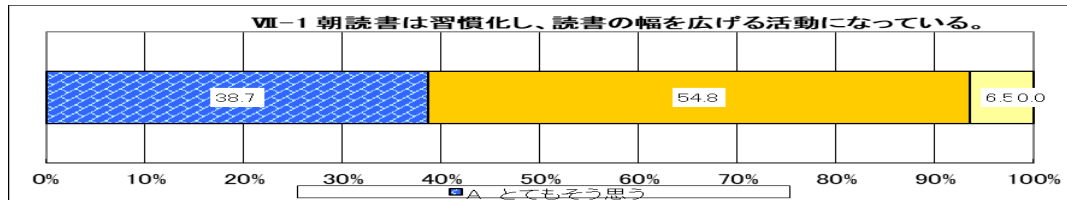


だれとでも挨拶をしていますか。(上段 R3 下段 R4)

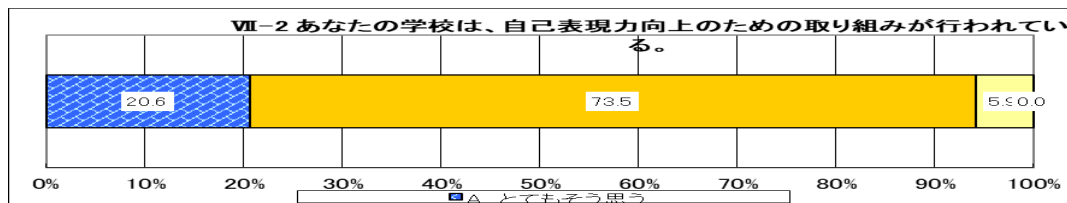
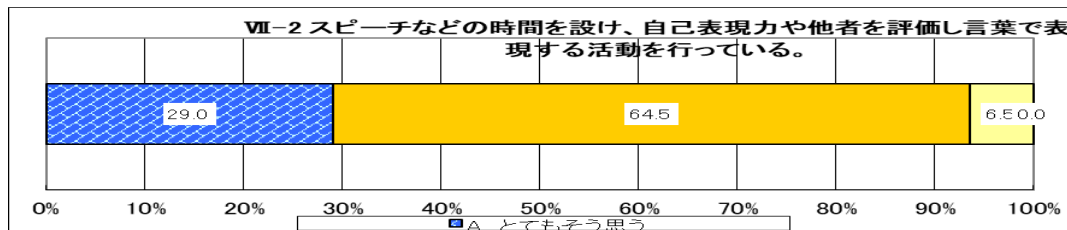
Ⅶ 創甲斐教育について

達成状況

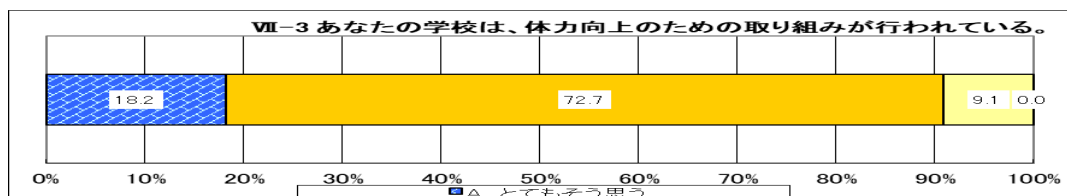
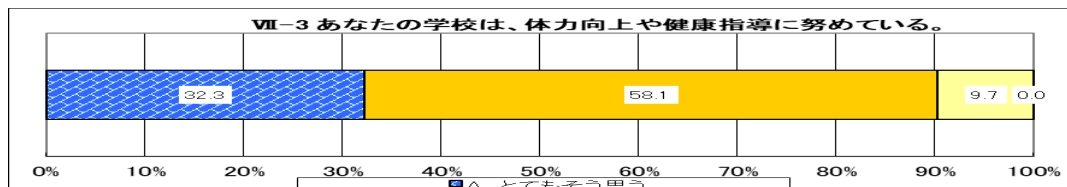
・創甲斐教育について、最頻値はすべてB評価である。  
 A+Bの肯定評価は読書・言語活動93.5%→84.8%で減少。スピーチ・自己表現93.5%→94.1% 体力向上・健康指導90.4%→90.9%は微増であった。



上段R3 下段R4 国語力向上



上段R3 下段R4 スピーチ 自己表現



上段R3 下段R4 体力向上 健康指導

改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は講義形式から協働的な学習に着実にシフトしている。特にロイロノートをはじめとする ICT を活用しての話し合い活動や情報共有が本年度は大きく前進した。生徒が主体的にまとめ、調べあい、議論する学習が盛んに行われるようになり、自分の考えを表現する機会が増加した。すべての学力は文字や会話で表現することで、漠然とした内容が具体化され個人の思いや考えになる。すべての教科と機会において言語活動や自己表現活動を一層とりいれ、生徒が変容していく環境と機会を教師は保証していく必要がある。</li> <li>・「体力向上」については、数値的には表れていないがコロナ禍での影響が依然としてある。部活動の大会はほとんど影響なく実施され、体育の授業も通常通り実施できている。ただ、炎天下でのマスク着用は推進していないものの、感染症対策のためマスクをはずさない生徒は依然として多い。今後は、適切な感染症対策の中での生徒達が運動に親しみ、練習を行えるよう指導の工夫と確実な時間の確保に取り組んでいく。</li> </ul>
-----	---

### 3 まとめ

#### <成 果>

- ・アンケート結果は、肯定的な回答が多く、概ね予想通りの結果である。昨年度から引き続き感染症対策に明け暮れ、様々な内容に制限が設けられることにより、生徒のためにやりたいことが思うようにできない状況は先生方の自己評価を確実に低下させている。
- ・職員は、感染症対策のため活動内容が制限された状況下で「自己表現活動」を工夫し実践してきた。特に ICT の活用を推進した協働的な学びの実践は、校内研究を中心にロイロノートの活用で大きく前進した。生徒は話し合いの場面が増加し、自分の考えを発表したり、議論し合ったりするようになった。学園祭でも竜王中の伝統である学年演劇はどの学年も生徒達が工夫して取り組み、見ごたえのあるものに仕上がっていた。保護者の協力や教師・生徒の努力により学習すべき内容は滞りなく終了させつつあることは大きな成果と考える。
- ・本校は生徒指導上の問題は近年非常に少なくなった。日頃から生徒に寄り添い、情報を広く求めながら取り組む本校職員の努力の成果であると考え。しかし、喫緊の課題として不登校やいじめが依然として存在する。甲斐市教育委員会をはじめ、関係諸機関と今後も連携し危機管理意識をもって学校運営に取り組んでいく。
- ・保護司や生徒会によるあいさつ運動は年間を通して取り組まれた。また、生徒会による小中連携あいさつ運動も予定通り実施された。PTA総会は紙上提案となってしまったものの、学校委員会や学校開放や講演会は予定通り実施できた。学校開放は通常時より人数が少なくなったものの160人以上が来校し、講演会も本年度は25人の参加をいただいた。また、PTAからは昨年度から実施したフードバンクの取り組みを2度行った他、PTA会長を中心に学校内施設の環境改善工事を実施していただいた。また、1・2年の職業学習には地域人材の方がコロナ禍にも関わらず協力していただいたことなど、今後も保護者や地域とのつながりを大切に学校運営を実践していきたい。
- ・コロナ禍のなかで学園祭文化部門の様子や壮行会は YouTube で生配信を行い、演劇は DVD に収録した上で保護者に配布した。体育の部は保護者2名までの参加ではあったが保護者に参観していただく事ができた。地域連携の実践は非常に少なくなってしまった感はあるが、連携が不足しがちな点を補足するため、校長通信「信玄堤」や学級通信・学年通信、図書だより、保健だよりが定期的に配布され、ホームページと合わせて情報発信を心がけ、地域と共に学びを推進できたことは成果と考える。今後も継続していきたい。
- ・校内研において「主体的に学ぶ生徒の育成 学習活動でのアプリの有効利用と実践にかかわ



るリテラシーの課題研究」について取り組んだ。学習指導要領が改定になり学習内容は増加しているものの、学習時間はむしろ減少傾向にある。学力向上の基本は家庭学習の定着や質的变化にあるとあっていい。授業の内容と家庭学習がつながりを持ち生徒達が持続的な学習に取り組むことが重要である。多くの教科でタブレットをつかった振り返りに取り組んだほか、ICTを活用したグループ討議（学び合い）に取り組んだ。グループや小集団をうまく活用すること、説明・発表する機会を多く設ける事、学習プリントを工夫することなどに取り組み成果をあげたと考えている。

ドラゴンスタディについては授業内で学び直しや振り返りを行い、帰りの会だけに限らず授業内で実施する方向で取り組みだした学年もある。浮いた帰りの会の時間は現在補修学習にあてている。1年次は学習の方法や流れを確認、2・3年次は身に付けた振り返りの方法を授業時に反映して取り組みを更に前進させる等、学習状況や発達段階を踏まえて取り組みを深化していくことが大切である。

- ・情報化やグローバル化が進み生徒達の家庭での生活は大きく変わった。特にスマートフォンやタブレットは生徒の生活に欠かせないものとなり、むしろスマートフォンやタブレットが生徒の生活の流れをつくっているといっても過言ではない。本校ではインターネットでの情報が生徒達に大きな影響を与えていることを踏まえ、情報リテラシー教育を教育課程に位置付け全校生徒に指導をしていく。

また、コロナ対策により少なくなっている保護者との情報共有は、学校・学年・学級通信、ホームページからの情報発信、二者・三者懇談、授業参観、学校委員会、PTA 総会等を実施し、学校と保護者の意思の疎通を図りながら目標を共有し、地域に生きる竜王中学校の生徒を育てていきたい。